

宗湯

Muneyu
(東京都北区)



外観

田端駅の南口を降りると、いきなりの階段が始まる。このあたりはかなりアップダウンの多い地形だ。今回紹介する銭湯は、田端駅から徒歩約5分のところにある宗湯である。「そうゆ」ではなく「むねゆ」と呼ぶ。創業者が「むねさん」だったから宗湯なのかと思ったが、フロントの女将さんによれば「わからない」のだそうだ。

そんな女将さんは、一見客の私に「ごゆっくりどうぞ」とおっしゃった。ありがたいことである。宗湯は鉄筋コンクリートの銭湯であるが、間取りは伝統的な銭湯そのものである。

脱衣室で大きな通勤かばんをロッカーに押し込んでいたら、常連客が「大きいロッカーもあるよ。使ったら？」と教えてくれた。脱衣室には骨董級のマッサージ椅子もある。

浴室はシンプルそのものだ。洗い場が28か所、シャワーブースが2箇所、浅風呂と深風呂のコンビネーション、大きなペンキ画がある。サウナ、水風呂、座風呂、電気風呂などはない。

浴槽の湯温は44℃を示しており、かなり熱い。浅風呂と深風呂の両方が薬湯になっており、本日の薬湯は「ローズヒップ（バラ実）」。ビタミンCが含まれているらしい。

ペンキ画は「アルプス湖畔」と書かれている。雪山を背景にして、手前に湖が配置された絵だ。涼しげである。女湯側は普通に富士山であった。

その女湯との境界にある壁の上には、広告灯が6つ並べられるようになっているが、今は1つしか広告がない。よく見るとこうある。「オフィスタナカ。貴金属、時計、自動車販売」。これは一体どういう店なのだろうか。貴金属と時計の様な小物と、自動車のような大物を両方売るとは。

今日はシャンプーを持ってきたつもりが、中身がリンスだったので、やむを得ず浴槽に浸かるだけになってしまった。無念。熱い浴槽であったが、慣れれば大したことはない。私も江戸っ子になってきたということであろうか。

宗湯を出ると、表の道をおじさんが変な自転車で走ってくる。自転車の周りにランタンをびっしりとぶら下げているのだ。その数ざっと50個以上。夜になると、きらめく自転車になるというわけであろうか。先のオフィスタナカと言い、この自転車のおじさんと言い、この街はどこかユニークである。

宗湯は、極めてシンプルな銭湯であった。坂道を登り返して田端駅に向かったが、汗をかいてまた銭湯に行きたくなった。宗湯に戻って石鹸でも買って再入浴した方が良さそうか。

- 名称：宗湯
- 所在地：東京都北区田端 1-16-3
- 電話：03-3828-2964
- 営業時間：15：30～23：30
- 定休日：月曜日
- 入浴料：大人 450 円、中人（6 歳以上 12 歳未満）180 円、小人（6 歳未満）80 円
- サウナ：なし
- サウナ内のテレビ：なし
- 取材日：2013 年 7 月 5 日（金）
- 取材：銭湯愛好会・東京支部